

イカルチドリ



鳥取県指定準絶滅危惧 (NT)

東長田川にて

(撮影：桐原佳介)

「わー！かわいい！」。双眼鏡で姿をとらえた時、思わず口走った私の素直な感想でした。川岸の湿った土が露出しているところを、チキチキチキと、小股でかつ早足で歩く姿は、まるでゼンマイ仕掛けのおもちゃのよう。時折、「ピュオ、ピュ、ピー」と聞こえる管楽器のピッコロのような愛らしい鳴き声。目の周りに縁取られている黄色のラインは、通称「アイリング」と呼ばれ、それをレンジ越しに見られたときは、ちよつと得をした気分です。

イカルチドリは、主にユーラシア大陸の東側に生息しているチドリ仲間、日本では地域によって、夏のみ見られる場所、年中見られる場所、冬に見やすい場所と、観察できる頻度に差があるようです。南部町では、初夏の田植えの時期、そして冬の寒い時期によく見られます。好物は、昆虫やミミズ、クモなどの水辺にすむ小さな生き物です。河川環境が貧弱になると、これらを餌とする生き物たちが少なくなつていきます。

以前、私に鳥のことを教えてくれ

た先輩から、こんなことを聞きました。「イカルコシロって知っている？」と。私は何のことだかさっぱり分かりませんでした。先輩によると、水辺で見られるチドリ仲間3種類が、川の上流・中流・下流ですみ分けられていることを示す業界用語みたいなものだそうです。つまり、イカルチドリ、コチドリ、シロチドリという3種のチドリたちが、それぞれよく見られる場所が、イカルチドリは上流域、コチドリは中流域、シロチドリは下流域と生息環境が違うとのこと。そこから3種の鳥の名前の頭を上流組から順に並べて「イカル・コ・シロ」という語呂のいい言葉が鳥の調査員の中で使われるようになったとか。確かに、南部町ではイカルチドリとコチドリは観察したことがありますが、シロチドリは未確認です。これからの季節、野鳥が観察しやすくなります。犬の散歩やウォーキングの時に、双眼鏡を持っていくと楽しい出会いが待っているかもしれませんよ。

自然観察指導員 桐原真希